

## 2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	解剖学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	通年 金曜4限	教室名	視聴覚室
担 当 教 員	有馬 那帆 早川 大輔	実務経験と その関連資格	医師として医療現場で従事している。			
<b>《授業科目における学習内容》</b> 身体の構造と機能のうち神経系の解剖、生理を学んでいく。疾患や障害の理解、リハビリテーション実施の基礎となるものである。 主に解剖学の教科書に沿い、それに一部生理機能を補いながら説明していく。内容は初めて習うことが多く、専門用語が多いので繰り返し復習することが大切である。						
<b>《成績評価の方法と基準》</b> 期末試験(筆記)100%で評定する。						
<b>《使用教材(教科書)及び参考図書》</b> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院)						
<b>《授業外における学習方法》</b> 教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。						
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 履修する内容が多いので、1回1回の講義を大切にしていきたいと思います。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	神経系の基本的な構造が説明できる。(～P232)			教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	神経系総論①(神経系の区分、構成)				
第2回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	中枢神経系・末梢神経系の構成を説明できる。			教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	神経系総論②(中枢神経系・末梢神経系)				
第3回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	髄膜・脳室系の構造と機能を説明できる。			教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	中枢神経系①(髄膜・脳室系)				
第4回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	神経系の発生に関して説明できる。			教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	中枢神経系②(神経系の発生)				
第5回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	脊髄の構造と機能を説明できる。			教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
	各コマにおける授業予定	中枢神経系③(脊髄)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	延髄の構造と機能を説明できる	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系④(延髄)		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	橋・中脳・網様体の構造と機能について説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系⑤(橋・中脳・網様体)		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	小脳の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系⑥(小脳)		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	大脳の構造と機能を説明できる①(P256～P263 大脳皮質機能局在前まで)	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系⑦(大脳1)		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	大脳の構造と機能を説明できる②(P263～P267 大脳皮質機能局在～)	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系⑧(大脳2)		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	神経路(伝導路)とその機能を説明できる。(P268～P271)	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系⑨(神経路1)		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	視覚の神経路、聴覚の神経路とその機能を説明できる。(P271～P273)	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系⑩(神経路2)		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	平衡覚の神経路、味覚の新経路、嗅覚の神経経路とその機能を説明できる。(P273～P274)	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系⑪(神経路3)		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	下行性神経路とその機能を説明できる。(P274～P277)	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系⑫(神経路4)		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	神経系の解剖学的・組織学的構造および生理学的作用が説明できる。 中枢神経系(脳および脊髄)や神経路の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	神経系総論・中枢神経系のまとめ		

## 2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科目名	解剖学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	通年	教室名	視聴覚室
担当教員	有馬 那帆 早川 大輔	実務経験と その関連資格	医師として医療現場で従事している。			
<b>《授業科目における学習内容》</b> 身体の構造と機能のうち神経系の解剖、生理を学んでいく。疾患や障害の理解、リハビリテーション実施の基礎となるものである。 主に解剖学の教科書に沿い、それに一部生理機能を補いながら説明していく。内容は初めて習うことが多く、専門用語が多いので繰り返し復習することが大切である。						
<b>《成績評価の方法と基準》</b> 期末試験(筆記)100%で評定する。						
<b>《使用教材(教科書)及び参考図書》</b> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院)						
<b>《授業外における学習方法》</b> 教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。						
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 履修する内容が多いので、1回1回の講義を大切にしていきたいと思います。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	末梢神経系の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
		各コマに おける 授業予定	末梢神経系(脳神経及び脊髄神経)総論			
第17回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	脊髄神経系(頸神経)の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
		各コマに おける 授業予定	脊髄神経①(頸神経)			
第18回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	脊髄神経系(頸神経)の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
		各コマに おける 授業予定	脊髄神経②(頸神経)			
第19回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	脊髄神経系(胸神経、腰神経)の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
		各コマに おける 授業予定	脊髄神経③(胸神経、腰神経)			
第20回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	脊髄神経系(腰神経、仙骨神経)の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。	
		各コマに おける 授業予定	脊髄神経④(腰神経、仙骨神経)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	脳神経の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	脳神経①		
第22回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	脳神経の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	脳神経②		
第23回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	脳神経の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	脳神経③		
第24回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	自律神経系の働きについて説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	自律神経系の働き		
第25回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	皮膚の構造と機能について説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	感覚器①(皮膚)		
第26回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	視覚器の構造と機能について説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	感覚器②(視覚器)		
第27回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	平衡聴覚器などの構造と機能について説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	感覚器③(平衡聴覚器、その他)		
第28回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	神経系・感覚器系の解剖学的・組織学的構造、生理学的作用 が説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	神経系・感覚器系総括①		
第29回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	神経系・感覚器系の解剖学的・組織学的構造、生理学的作用 が説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	神経系・感覚器系総括②		
第30回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	神経系・感覚器系の解剖学的・組織学的構造、生理学的作用 が説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心 に予習。授業で学んだこ とをノートにて復習する。参 考図書・テキストなどで理 解を定着させる。
		各コマに おける 授業予定	神経系・感覚器系総括③		